

学会だより

「宇宙電波懇談会」の発足について

12月2日、宇宙電波将来計画総合シンポジウムの終了後、電波天文懇談会が開かれ（参加者30名）、これまで性格があいまいであった電波天文懇談会を解消して、研究者グループとしての宇宙電波懇談会を発足させることになり、以下の確認を行ないました。

- 名称 「宇宙電波懇談会」（略称「宇電懇」）
 性格 宇宙電波に関心をもつ研究者の自主的組織。
 目的 日本の宇宙電波研究にかかわる活動を行なう。
 メンバー 会はオープンとするが、メンバーシップを明らかにするため、名簿を作る。

正式発足は1月下旬の冬の勉強会（次項参照）の折りとしたいと思います。宇宙電波に関心を持たれるすべての研究者の参加を期待します。詳しくは臨時世話人（関・田原・森本・寿岳・海部・鰐目・祖父江・河鱈）へおた

ずね下さい。

QSO 勉強会のお知らせ

東京で毎年開かれている冬の勉強会の今年度のテーマとして、QSO（恒星状天体）が取り上げられることになった。期日は1月20日（火）～23日（金）の4日間（20日のみ13時から、21日以後は10時から）、場所は三鷹市大沢の東京天文台講義室、予定されているプログラムの概略は：—観測事実（光・電波）、その解釈、モデル、研究の発展と方向、今後の研究の提案などである。

メキシコ日食観測団の計画

プロとアマが一緒になって組織した日本日食研究会という会が主催して、3月7日メキシコで皆既日食を観測しようという計画がある。予報の計算・観測の計画と記録などは、同会の実行委員が中心となって取り組むという。総経費概算は、7日コースで37万円、帰りにアリゾナ隕石孔やローエル・ウィルソン山などの天文施設を回る12日コースが45万円。問い合わせ先は交通公社虎の門支店（東京都港区、電話 03-502-2963、林、長谷川氏）。

1970年版

天文年鑑

天文年鑑編集委員会編
 B6判・112ページ
 250円発売中

〈カラー〉 火星／1969年3月18日の部分日食

〈グラフ〉 火星／アポロ撮影の月面写真／マリナー6、7号による火星写真／1969年の彗星／プレアデスの星食／特異小惑星ジオグラボス

〈本文〉 1970年の毎月の天象（鈴木敬信）

1月の空／2月の空／3月の空
 4月の空／5月の空／6月の空
 7月の空／8月の空／9月の空
 10月の空／11月の空／12月の空

「毎月の空」の説明（鈴木敬信）／
 「惑星と月の出没時刻」「木星の衛星の運動図」の説明（鈴木敬信）／
 惑星と月の出没時刻〈図〉（鈴木敬信）／
 木星の衛星の運動図（鈴木敬信）／
 1970年の星食（鈴木敬信）／
 水星の日面経過（鈴木敬信）／日食と月食（鈴木敬信）／太陽黒点の経緯度（鈴木敬信）／太陽黒点（小野実）／太陽の月面余経度と月面緯度／

月面図／月のニュース（宮本正太郎）／

天文定数／水星＝水星のこよみ

金星＝金星のこよみ

火星＝火星のこよみ

木星＝木星のこよみ

土星＝土星のこよみ

天王星・海王星・冥王星

（鈴木敬信）／1970年の太陽系（鈴木敬信）／人工天体（平田智啓）／

小惑星（富田弘一郎）／前年度に発見された彗星（富田弘一郎）／近く訪れる彗星（富田弘一郎）／隕石（村山定男）／主な流星群（富田弘一郎）／

変光星（下保茂）／新星（下保茂）／

フラムステッド数がついている星／

天体写真のためのデータ／X線星〈エクスター〉（大木健一郎）／星座／太陽系のニュース（鈴木敬信）／恒星界のニュース（鈴木敬信）／ユリウス日（鈴木敬信）／1年間の天文書／最近1年間のトピックス／日本の日

出没時と月出没時／春分点の正中時

誠文堂新光社
 東京・神田錦町1-5/振替東京6294